

aiou -pre-

ミウラジュンコ

透明人間と赤い蝶々

怖いよ

わたしが見えなくなってしまうこと

怖いよ

あなたと逢えなくなってしまうこと

何処へ行こう？

何処までだって

続いている

道はある

ただ、ひとつ

足下照らす

明かりは夢の中

消えてゆく

わたしの胸にとまった

赤い蝶々

が、ひらり

遠く行くの？

求め行くの？

小さな箱には

甘い

お菓子がふたつ

食べると

いますぐ、ねえ

死んでしまうでしょう？

透明の唄に

隠れて

泣いてみた

何もなかった

体温は息を潜める

ここで眠るうちに

流れゆく

来た道も覚えてない

誰も見つけられない

飛んで行った

そつと落ちた

わたしの胸に触れても

あなたは

気付けない

すべてを抱えていった

赤い蝶々

は、いない

岸辺に咲いた花の匂い

透きとおる

風と共に

午後九時二十八分

小さな愛が消えたとき

あなたは

どんな顔をするだろう

止まった生活音

と

緊張感

きつと見てるのは

よその国

愛してる

って

聞いたのは

あの空気の奥でのことでした

まだ何も知らなかった

幼い

おさない

あなたの

てのひら

こんな言葉は

どうだろう

知らなかったら

どうだろう

夢になったら

どうだろう

気持ちの悪い夜の陽射し

変わりものにはなりたくなかった

ただ

空を眺めていた

くるりくるりは時の声

からりからりと鳥の声

動いてゆく

感動の流れは

そっと笹舟を押し出す

何かを待っていた

目を閉じて

手をかざしているのが見えた

きつと明日は幸せだよ

訳もなく

そんな声を聞く

一度だけなら許してもらおう

眠くなったら目を閉じる

強いものは弱いもの

すぐ消し去りたくなりました

ばいばいさよなら

おげんきで

今日も世界は

(平和です)

挨拶

痛いよ

って

泣いてたら

撫でてくれるんでしょうか

寒いよ

って

震えてたら

抱きしめてくれるんでしょうか

どうしてだろう

いつからだろう

わたしが痛まないように

あなたが涙しないように

小さな箱に優しく詰めた叫びは

呼吸を

奪って

奪って

それから、そうして
ああして、こうして
くるくる回る

わ

世界の色

は

他愛なく作られた縄で

ぎゅつと

愛と首とを縛って

ぎゅつと

あそこに夢が

ありまして

そつと美味しく食べました

あそこに空が

ありまして

そつと美味しく飲みました

どうしてだろう

いつからだろう

わたしが信じてたように

あなたが疑ってたように

白い物語、はじまりました

おはよう

ばいばい

きらきら星は

今日も変わらず

くるくる回るの

くろーい道を

繋がってる

って

嘘つくよ

きつと

あなたが切ったからさ

きつと

ひとつ、ひとつ

おはよう、ばいばい

ひとつ、ひとつ

おはよう、ばいばい

光彩

天氣が君の横を通り過ぎた

青い空にも雨にも喜んで笑った

ふわり

木々に身をゆだねて

僕は話をしよう

それはどこか遠い

夢の上の足跡

すれ違う人の声を知らない

温く触れた指は幻かもしれない

ゆらり

君は時計の針を

白い息で回す

不釣り合いな天秤も

気にしなくていいよ
と

走る雲の熱を君に
捧ぐように
濡れた服の傷みを
忘れないように

木々に身をゆだねて
僕は話をしよう
それはどこか遠い
夢の上の足跡

飾りの無い縁の
中にひとつ切り取って
繋ぎ合う光彩に
キスを
落として眠ろう

ミウラジュンコ

1990年08月13日生まれ、21歳。

青森県出身。

現在は北海道を拠点に活動中。

のんびりは好き。物足りないのは嫌い。

可愛い正義。

友達になったらハグしよう！

aiou

2012年6月9日 発行